

キハダ 中西部太平洋

Yellowfin Tuna, *Thunnus albacares*



管理・関係機関

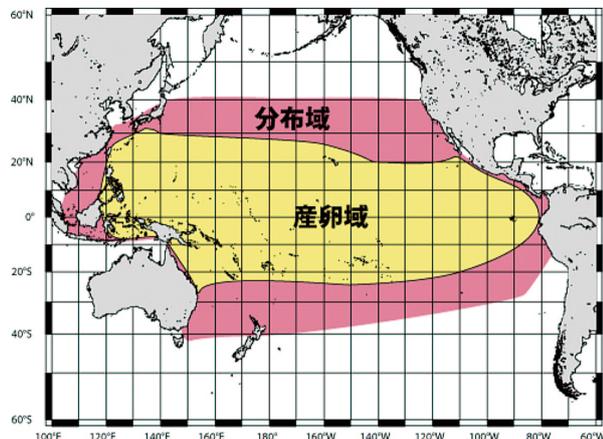
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
太平洋共同体事務局 (SPC)

最近一年間の動き

中西部太平洋 (WCPFC 条約水域) におけるキハダ漁獲量は、1998 年以降、50 万トン前後で比較的安定して推移してきた。2012 年の漁獲量は、まき網及びインドネシアの沿岸漁業の漁獲増加によって、2011 年を 10 万トン以上も上回る過去最高の 65 万トンに達した。はえ縄及び竿釣りによる 2012 年漁獲量は、2011 年とほぼ同レベルである。中西部太平洋における本種の資源評価は、SPC により 2011 年に実施されたものが最新である。

生物学的特性

- 寿命：7～10 歳
- 成熟開始年齢：3 歳
- 産卵期・産卵場：周年、表面水温 24℃ 以上の海域
- 索餌場：分布域に等しい
- 食性：魚類・甲殻類・頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



太平洋におけるキハダの分布

利用・用途

刺身、缶詰、練り製品の原料

漁業の特徴

本資源の主要な漁業は大洋のやや深い水深帯 (100～250 m) の魚群が対象のはえ縄と、表層付近の魚群が対象のまき網・竿釣りである。従来は、はえ縄の漁獲が大勢を占めたが、1980 年代からまき網漁業が熱帯水域で発達し、その漁獲量は他漁業を遥かに凌駕した。フィリピン・インドネシアでは小型まき網、ひき網、竿釣り、手釣りなど漁業が小規模かつ多様で、漁獲量も大きく、増加傾向にある。

漁業資源の動向

主に赤道域で、はえ縄、まき網、竿釣り、手釣りの 4 漁業で大部分が漁獲されている。はえ縄は 1950 年代にキハダを主要なターゲットとして発展したが、1970 年代半ばにその主要なターゲットはメバチに代わった。大規模なまき網は、カツオをターゲットとしながらもキハダも漁獲する漁業として 1980 年代初めに発達した。インドネシアとフィリピンによる漁獲の増加とともに、まき網は 1980～1990 年の間に WCPFC 条約水域におけるキハダの漁獲を 20～40 万トンへと倍増させた。近年、キハダ漁獲の 60～70% はまき網によって漁獲されており、総漁獲量は 50 万トン前後で推移してきたが、2012 年には、まき網及びインドネシアの沿岸漁業の漁獲増加によって、2011 年を 10 万トン以上も上回る過去最高の 65 万トンに達した。2012 年の漁獲のうちまき網は 60%、はえ縄が 13%、竿釣りが 5%、手釣りが 6%、残りがフィリピン及びインドネシアにおける他の漁業である。

資源状態

2011 年の資源評価の結果、 $F_{current}/F_{MSY}$ は 0.56～0.90 と推定され、中西部太平洋 (WCPO) におけるキハダ資源に対する漁獲努力の状態は MSY レベルを超えておらず、 $B_{current}/B_{MSY}$ と $SB_{current}/SB_{MSY}$ は 1.0 よりもかなり高い (1.25～1.60 と 1.34～1.83) と推定され、現在の資源状態は MSY レベルを下回った乱獲状態ではないと考えられた。MSY の推定値 (48～58 万トン) は、近年のキハダ漁獲量レベル (55 万トン) と同等である。さらに、平衡状態において、予想される生産量 ($Y_{F_{current}}$) は MSY の推定値に近く、現在の漁獲量が長期間持続可能な状態かそれ以上にあると示唆される。

管理方策

2013 年 12 月に開催された WCPFC 本会合において、2014～2017 年の合意された措置は以下のとおり。

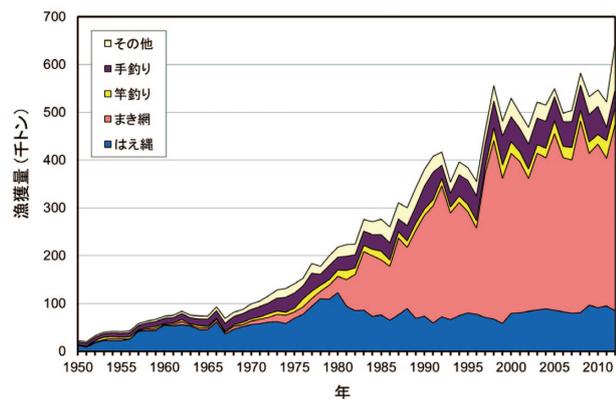
(a) まき網漁業
キハダの漁獲量を増大させない。

(b) はえ縄漁業
キハダの漁獲量を増大させない。

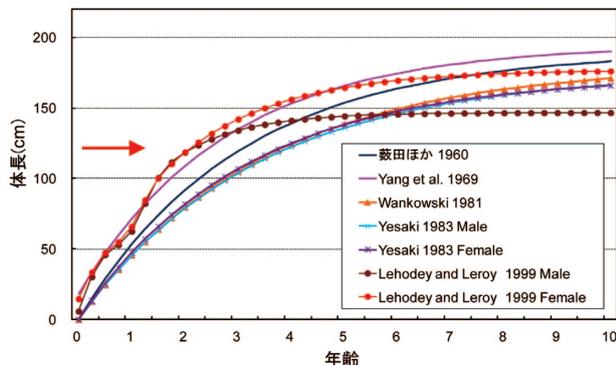
また、メバチ幼魚の漁獲死亡率を削減するために、熱帯水域（北緯 20 度～南緯 20 度）で操業するまき網漁船に対し、集魚装置の管理が導入されており、本種にも影響を与えている。2013 年に合意された措置は以下のとおり。集魚装置を用いた操業の 3 ヶ月間禁止に加え、2017 年に、公海の集魚装置の使用を禁止し、それまで段階的に集魚装置の使用数の削減又は 2 ヶ月間の使用禁止期間延長。さらに、大型まき網漁船の過剰漁獲能力（2012 年末を超えるもの）を削減する仕組みを先進国が来年年次会合までに作成することも 2013 年に合意した。

資源評価まとめ

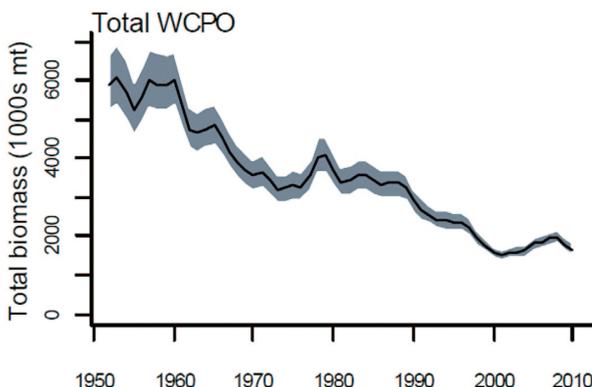
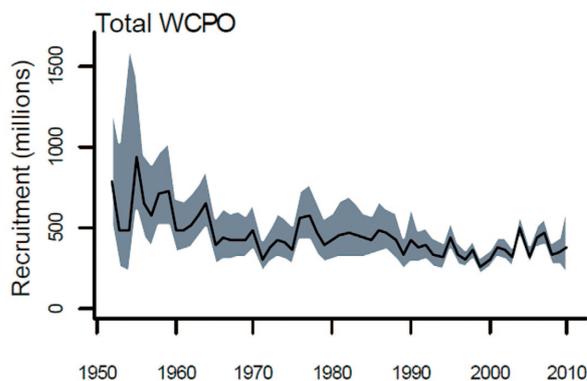
- WCPFC からの委託により、SPC の OFP (Oceanic Fisheries Programme) が実施
- 統合モデルである Multifan-CL により評価
- 資源水準は中位で横ばい



中西部太平洋におけるキハダの漁法別漁獲量年変化

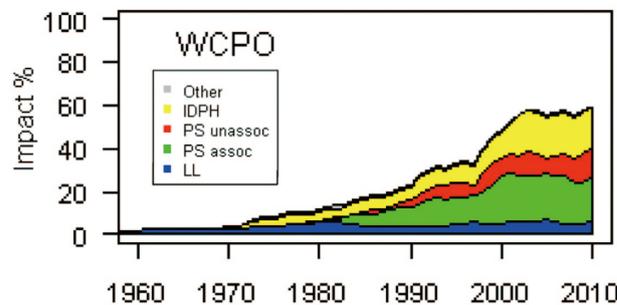


中西部太平洋キハダの年齢と成長
矢印はほぼ全ての個体が成熟する体長（尾叉長 120 cm）を示す



MULTIFAN-CL で推定された加入量(上)と資源量(下)の傾向(千トン)
(Langley *et al.* 2011)

灰色部分は 95% 信頼区間を、Total WCPJO が中西部太平洋におけるキハダの全資源量を表す。



MULTIFAN-CL で推定された各漁業の本資源への影響 (Langley *et al.* 2011)
縦軸は漁業が資源を減少させた割合 (%) を示したものの。はえ縄 (青)、まき網素群れ (赤)、まき網流れ物 (緑)、フィリピン・インドネシアの漁業 (黄)、その他 (灰色)

キハダ (中西部太平洋) の資源の現況 (要約表)	
資源水準	中 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	52.2 ～ 64.6 万トン 平均：56.6 万トン (2008 ～ 2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	4.1 ～ 6.4 万トン 平均：5.3 万トン (2008 ～ 2012 年)